

平成 20 年度第 1 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会 議事要旨（案）

日時：平成 20 年 9 月 30 日（火） 16：00～18：00

場所：虎ノ門パストラルホテル本館 8 階けやき

出席委員：北野大（座長）、有田芳子、井上達、佐藤洋、高橋道人、
遠山千春、渡邊信

事務局：原環境保健部長、木村環境安全課長他

議題：

- (1) 基盤的研究・野生生物の生物学的知見収集の推進について
- (2) 作用・影響評価について
- (3) 国際協力関係事業について
- (4) リスクコミュニケーションの推進について
- (5) その他

議事要旨：

- (1) 基盤的研究・野生生物の生物学的知見収集の推進及びフィージビリティスタディーの公募について報告・説明が行われた。
【委員からの主な意見】
 - ・ 評価をした上で継続すべきもの、終了すべきものの判断がきちんとなされており、それなりに正しく評価が行われつつ研究が進められている印象を受ける。
 - ・ 環境省、あるいはその諮問委員がこの事業で目指しているところを更に明らかにし、公募の際に明確に示すことによって、応募者が少数であっても、より事業の目的に適った成果が得られるのではないか。
- (2) ExTEND2005 における作用・影響評価の詳細調査の検討について報告・説明が行われた。
【委員からの主な意見】
 - ・ 文献に関する信頼性評価をするのであれば、第一次スクリーニングとしてまず文献を選ぶ際には、幅広く、むしろ見落としがないようにすべきである。その上で実際に試験対象物質を決める際には、より詳細に、予算の観点からも考慮して決めていくべきである。
- (3) 経済協力開発機構への協力、日英共同研究及び日米二国間協力について報告・説明が行われた。
【委員からの主な意見】
 - ・ 性比をエンドポイントとした試験法があったが、個体だけでなく、個体群に対する影響のようなものを見る試験法についても推し進めてほしい。
- (4) 平成 19 年度以降の化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページの運用と更新状況、平成 20 年度身近な野生生物の観察事業、及び平成 19

年度国際シンポジウム開催結果等について報告・説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・ 国際シンポジウムの開催等、リスクコミュニケーションに関する取組はなされているが、まだまだ理解されていない。現在の研究状況がどの程度であるのかというのを、今回のシンポジウムでも丁寧に伝えてほしい。
- ・ 昨年も、リスクコミュニケーションは、一方通行ではなく双方向のコミュニケーションであることが重要だという意見があったと思うが、その意味で、今回ホームページに相談室を設けるとするのは非常に重要なことである。検討だけに終わらず、ぜひ実現してほしい。
- ・ 野生生物の観察事業や国際シンポジウムなど、今後アンケート結果を取りまとめていく上で、マイナスの意見が少数でも、それをきちんと捉え、改善を図ればより良いものになっていくだろう。マイナスの意見というのは、少数でも大切にすべきである。